



COLORS INNOVATION

[川崎臨海部]

いろいろな未来を、臨む場所。

Colors, Innovation

川崎臨海部ってこんなところ

川崎市の海側にたくさんの工場や発電所が立地しているエリアは「川崎臨海部」と呼ばれています。

イノベーションが生まれ続ける産業拠点として、世界に向けて更に飛躍しています。



川崎臨海部はおよそ 110 年前から、工業用地として順番に埋め立てられました。
多摩川をはさんで羽田空港の向かい側のエリアが「キングスカイフロント」です。

■川崎臨海部の位置



■川崎臨海部の交通網



川崎臨海部は私たちの生活を支えている大切な場所です。

■ものづくりとコンビナート

川崎臨海部には、たくさんの工場や発電所があります。その多くは、石油精製業、化学工業、セメント製造業など、製品の素材になるものを製造している「ものづくり企業」です。

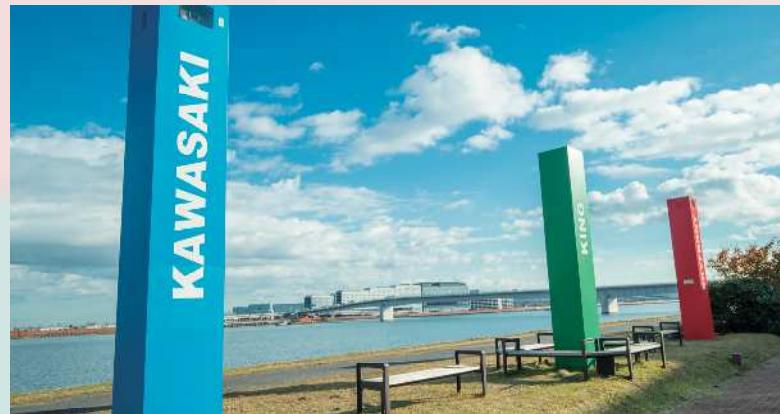
ここでつくられている素材は、様々な製品で使われているプラスチックや繊維、ゴム、塗料、洗剤などになって、私たちの日常生活に欠かせない製品になっています。



■私たちが健康に暮らせるための研究開発を行う

羽田空港の向かい側に位置する川崎区の殿町地区には、「キングスカイフロント」と呼ばれるエリアがあります。

私たちが健康で安心して暮らせるための病気の治療法や薬などに関する世界最先端の研究が、このエリアに立地している企業や研究機関によって行われています。



■首都圏の物流を支え、世界とつながる港

川崎港は京浜工業地帯の中核を成す工業港として、またエネルギー供給基地として、首都圏の産業と市民生活を支えてきました。

近年は、首都圏の物流拠点としても重要な役割を担いながら、国際貿易港として発展を続けています。



川崎臨海部の歴史

■京浜工業地帯の生みの親「浅野総一郎」

実業家である渋沢栄一の支援により、セメント、炭鉱、ガス、造船などの様々な事業を手がけました。ヨーロッパやアメリカで見た大型貨物船が接岸できる港湾施設や、運河に面した工業用地の必要性を痛感し、1913（大正2）年から、首都東京に近い京浜臨海部において埋め立て工事に着手しました。



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(https://www.ndl.go.jp/portrait/)

■環境問題の解決に向けた取組

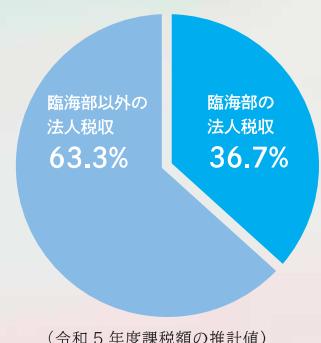
1960年代から1970年代に発生した大気汚染や水質汚濁などの甚大な公害問題に対し、市民、事業者、行政は様々な取組を行うことで、市民が安心して暮らせる生活環境を取り戻してきました。

■日本の高度成長をけん引

戦後、製鉄所や発電所、石油化学などの重工業の集積が進み、川崎臨海部は京浜工業地帯の中核として、日本の高度成長をけん引する重要な役割を担う地域として発展しました。

■川崎市の財政も支えている

企業が川崎市に納めている税金について、全市に占める臨海部立地企業の割合は約36.7%で、市民サービスの向上に貢献しています。



Colors,Innovation

SHINE

川崎臨海部には色々な「光」がある。

川崎臨海部は、石油精製や化学工業を中心とした工場と

発電所が集積した日本でも有数のコンビナートです。

夜を迎えると様々なプラントに作業用の灯りが灯ります。

この光は、私たちの生活を24時間、365日支えている光でもあります。

石油化学コンビナート

■ものづくり産業が高度に発展し続けるエリア

川崎臨海部は、石油精製業、化学工業、製鉄業、セメント製造業などの、様々な「ものづくり企業」と、ものづくりに欠かせない電気の発電所が集積した日本でも有数のコンビナートです。

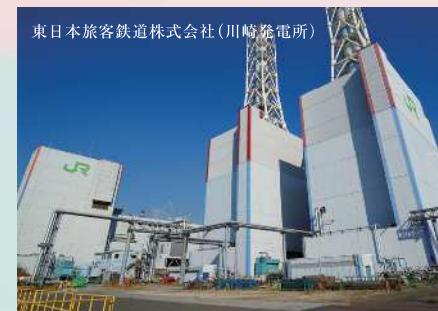
コンビナートとは、企業が相互に生産性を向上させるために、地域的な近接性を活かして原料・燃料・工場施設を結び付けた工場地域です。複数の企業をパイプライン(配管)でつなぎ、全体で効率を高めています。多くの企業が集まり、相互に連携することで、価値の高い製品を効率的に作り出しています。

発電所

■首都圏の一般家庭が消費する電力と ほぼ同じ規模の能力を生み出すエリア

川崎臨海部には、火力発電所を中心として、バイオマス発電所、太陽光発電所、風力発電所などの数多くの発電所が集積しています。

川崎臨海部に立地する発電所の発電能力の合計は約800万kW以上で、これは、首都圏の一般家庭(世帯数:約1,922万世帯)の消費電力とほぼ同じ規模です。



製造品出荷額

■生産性の高い工業都市川崎の中心地

工場で製造したものを出荷した場合の金額を「製造品出荷額」といいます。川崎区の製造品出荷額は約2兆5,877億円で、そのほとんどが川崎臨海部の工場です。川崎市全体では約3兆4,113億円ですので、川崎臨海部は、その金額のうちの約76%を占めています。

また、川崎市は、全国の大都市21都市での比較で、「従業者一人当たり製造品出荷額等」が第1位です。とても効率的にものづくりをしている、生産性の高い工場が多いといえます。

21大都市(政令指定都市及び東京都区部)比較
一人当たり製造品出荷額等

	川崎市	7,163万円
2	堺市	7,108万円
3	千葉市	5,601万円
4	広島市	5,365万円
5	仙台市	5,314万円

総務省統計局「令和3年経済センサス～活動調査」より

Colors, Innovation

CHALLENGE

川崎臨海部では色々な「挑戦」が行われている。

それは、近年増えている異常気象など、私たちの生活を脅かす身近で重要な問題への取組です。

川崎臨海部は市域全体の中でも CO₂ 排出量が多く、削減が喫緊の課題です。

川崎市では、力強い産業都市としてコンビナートの競争力を高めながら、

化石資源のみに頼らない世界の模範となるカーボンニュートラルコンビナートを目指し、

官民の多様な主体が協力して取り組んでいます。

川崎臨海部に関わる一人一人の取組が大きな力となり、

コンビナートのカーボンニュートラル化という大きな目標に向かって進んでいます。



第4回川崎カーボンニュートラルコンビナート形成推進協議会及び川崎港カーボンニュートラルポート形成推進協議会合同会議

カーボンニュートラルなエネルギー・素材を作る、新しいコンビナートへ

■CO₂を出さない水素を利活用するモデルを川崎で

Q. 水素の何がすごいの？

A. 水素は

- ①資源として豊富(地球上に多く存在)
- ②地球環境に優しい(CO₂を出さない)クリーンなエネルギー
- ③大きなエネルギー源に！(宇宙ロケットの燃料にも)

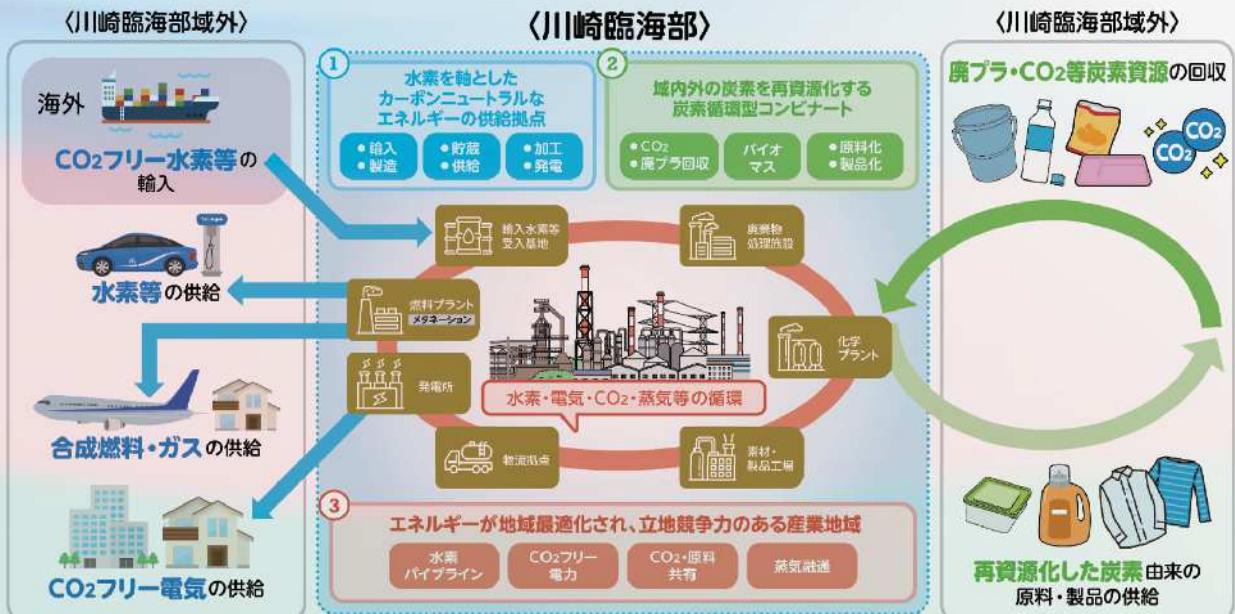
川崎臨海部では、2030年に向けて、CO₂フリーの水素を船で運んで、コンビナートで利用するための仕組みを作る実証が始まっています。水素を発電所や工場のボイラーで利用することで、CO₂を出さない電気を市民の皆さんに届けたり、CO₂を出さないものづくりが可能になります。

東京都や大田区、横浜市と連携し、川崎臨海部を中心とする京浜臨海部という大きな枠組での水素の利活用に向けた取組を進めています。



■2050年の川崎臨海部のコンビナート

川崎臨海部では、温室効果ガスの発生を抑えて、ものづくりを続けていくため、地域でエネルギーを無駄なく使いながら、CO₂を出さない水素を輸入し、燃料を転換したり、廃プラスチックやCO₂といった炭素資源から素材や製品を作り出すことで、新たな化石資源の利用を減らす次世代型のコンビナートモデルに挑戦しています。



■世界有数のプラスチックリサイクル技術が川崎に

川崎臨海部には使用済みプラスチックを原料や製品に再資源化する施設が集積し、国内のプラスチックリサイクル量の約10%以上を処理できる能力を有しています。

使用済みプラスチックを選別して、再生材等に戻す選別施設や使用済みプラスチックを化学的に処理して、製品の原料などに戻す「ケミカルリサイクル」など世界有数の技術や取組により、資源循環を当たり前にするサーキュラーエコノミー(循環型の経済システム)の実現を目指します。



株式会社レゾナックの川崎事業所では、使用済みプラスチックから水素をつくり、パイプラインで近隣のホテルなどに水素を供給しています。川崎キングスカイフレント東急REIホテルは、世界初の水素ホテルとして、供給された水素で電気をつくり、使用しています。



Colors, Innovation

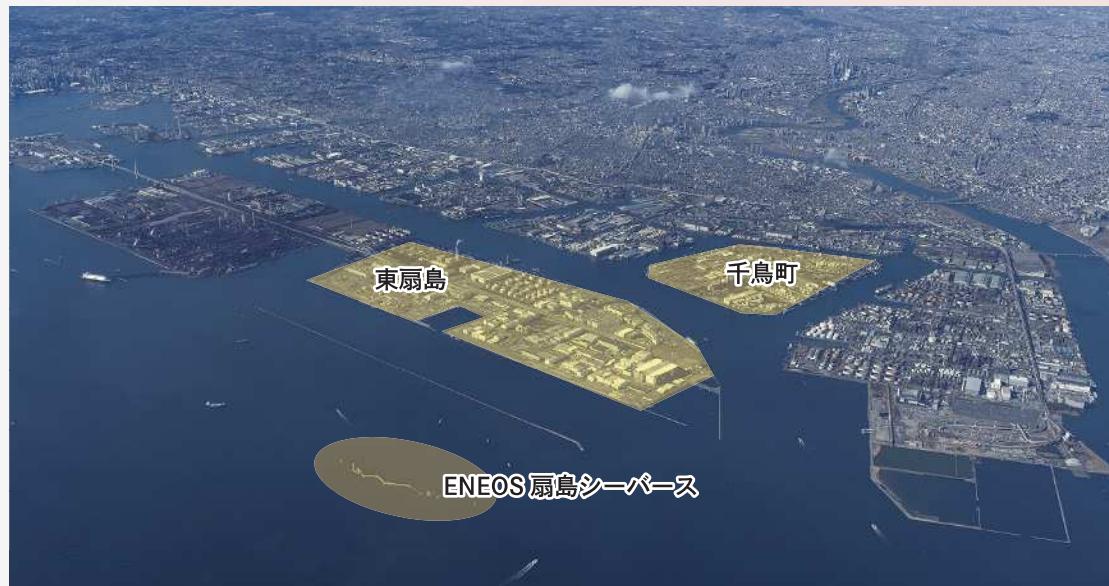
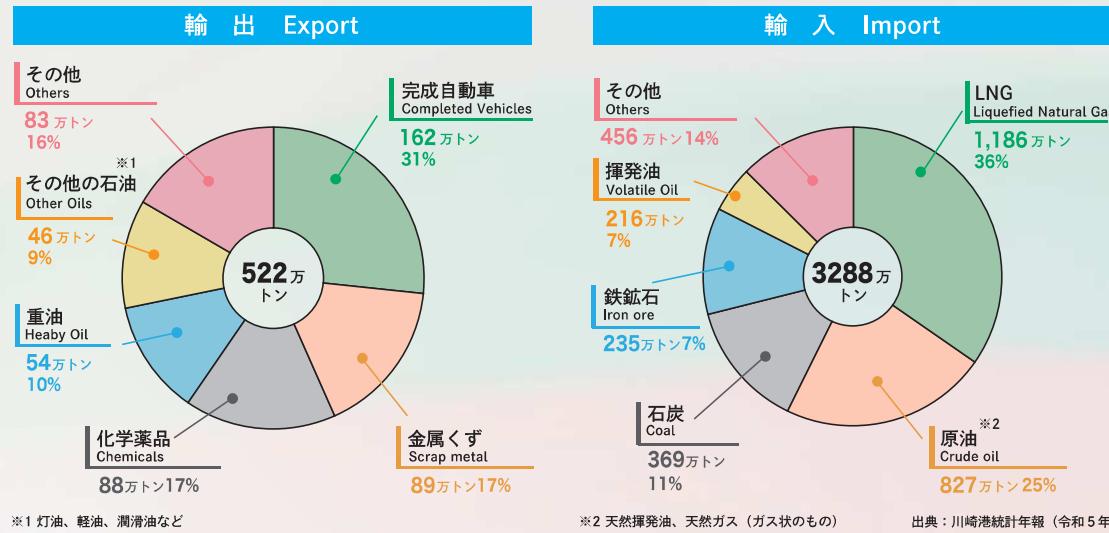
POWER

川崎港には暮らしを支える色々な「力」がある。

川崎臨海部にみなぎる力。その源は、
京浜工業地帯の中核を担う工業港として、
またエネルギー供給基地としての発展にあります。
近年は首都圏の物流拠点としての役割も担いながら、
世界とつながる国際貿易港として、
首都圏の産業と私たちのくらしを力強く支えています。

■首都圏の物流を支え、世界とつながるエリア

海外から日本に入ってくる貨物の99%が船によって運ばれています。これらの貨物を船に揚げ積みする場所が港です。川崎港は、海・陸・空の結節点として高いポテンシャルを活かした魅力あふれる空間が形成され、エネルギーや食料をはじめ、市民生活や企業活動を支える様々な貨物を取り扱っています。



■多様なロジスティクス機能が集約される公共ふ頭

総面積443万m²(東京ドーム約94個分)の広さを誇る東扇島地区は、国内外の貨物輸送を行う船舶の係留施設が整備されています。また、たくさんの物流施設が立地し、特に冷凍・冷蔵倉庫の保管能力は約125万tあり、日本唯一の集積を誇ります。

戦後、川崎市にはじめて誕生した公共ふ頭である千鳥町地区には、鉱産物、雑貨など、様々な貨物が揚げ積みされています。

■シーバース

大型タンカーボートなどにより海外から輸送された原油などの液体貨物は、水深の深い海上に設けられた係留用施設で、安全に搬入されています。



■市民のオアシスとしての側面も併せ持つ



◆川崎マリエン

パノラマビューが楽しめる展望台をはじめ、テニスコートや体育館などのスポーツ施設、マリエンシアターなどを備えています。

◆東扇島東公園

川崎市唯一の人工海浜を有する東公園は、災害時には、広域防災拠点として機能し、平常時は、BBQやドッグランが楽しめる市民の憩いの場となっています。

DREAM

殿町国際戦略拠点

キングスカイフロント

川崎臨海部には世界に羽ばたく色々な「夢」がある。

川崎臨海部に無限に広がる夢。それは未来をひらく

オープンイノベーション拠点であるキングスカイフロントです。

世界中の企業や研究機関が、異なる価値観とアイデアを交わしながら協力・連携し、

次々とイノベーションを生み出しています。川崎から世界へ

そして未来へ、夢を現実へと導きます。



殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント

■世界最先端のライフサイエンス研究開発クラスター

羽田空港の向かい側に位置する川崎区殿町に、ライフサイエンス分野で世界最先端の研究が行われている「キングスカイフロント」と呼んでいるエリアがあります。最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーションの拠点です。



■世界との玄関口である羽田空港に隣接

キングスカイフロントは、多摩川を挟んで羽田空港と向かい合い、東京や横浜とのアクセスにも優れています。大都市から近く世界とつながる研究のまちとして存在感を増しています。



■オープンイノベーション拠点

キングスカイフロントは、異なる企業や研究機関の研究者たちが活発に交流して、協力・連携しながら、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点です。



KING SKYFRONT

Kawasaki INnovation Gateway at SkyFront

「キング(KING)」は、「Kawasaki Innovation Gateway」の頭文字と「殿町」の地名に由来しています。「スカイフロント(SKYFRONT)」は、羽田空港の目の前という立地や、このエリアが世界につながっていることを表しています。



■多様な人材が集まり、交流が生まれる

年齢・性別・国籍を問わず、多様な人材が集まり研究を進めています。そして、研究者同士の交流が生まれ、共同研究も活発に行われています。



■日本の成長戦略をけん引

約40haに及ぶエリアでは、健康・医療・福祉・環境といった社会課題の解決に貢献するとともに、この分野でのグローバルビジネスを生み出すことで、日本の成長戦略の一翼を担います。

未来の科学者を、ここから

—キングスカイフロント夏の科学イベント—

「夏の科学イベント」では小学生が実験等を通じて、世界最高水準の科学技術に触ることで、「サイエンス」を身近に感じてもらい科学技術に対する興味・関心を持つきっかけづくりを行っています。



Colors,Innovation

FUTURE

川崎臨海部には魅力あふれる色々な「未来」がある。

川崎臨海部に広がる輝く未来。それは様々な産業や人材、文化が高度に融合し、

社会変革を先導する新しい価値を生み出し続け、世界へ飛躍してきた過去があるからこそ。

まさに今、カーボンニュートラルコンビナートの実現と産業構造転換に伴う

大規模な土地利用転換という100年に一度の大変革期を迎えてます。

世界的に例がない大きなチャレンジで、川崎は未来へと踏み出します。





川崎臨海部の大規模な土地利用転換

川崎臨海部に立地する鉄鋼メーカー JFE スチールは、東日本製鉄所（京浜地区）における主要設備である高炉等を、令和 5(2023)年 9 月に休止しました。このため、川崎臨海部の土地約 2,800ha(ヘクタール)のうち、約 400ha を占める J F E スチールが所有する土地について、これまでの製鉄所などから別の利用に変えるための取組を進めています。

扇島南地区（川崎側）が面積としては一番大きく、222ha です。その他に扇島北、南渡田、池上町、扇町、水江町の各地区を加え、合計約 400ha の広大な土地を 2050 年までに段階的に整備していくことになります。



南渡田地区で進む新たな産業拠点形成

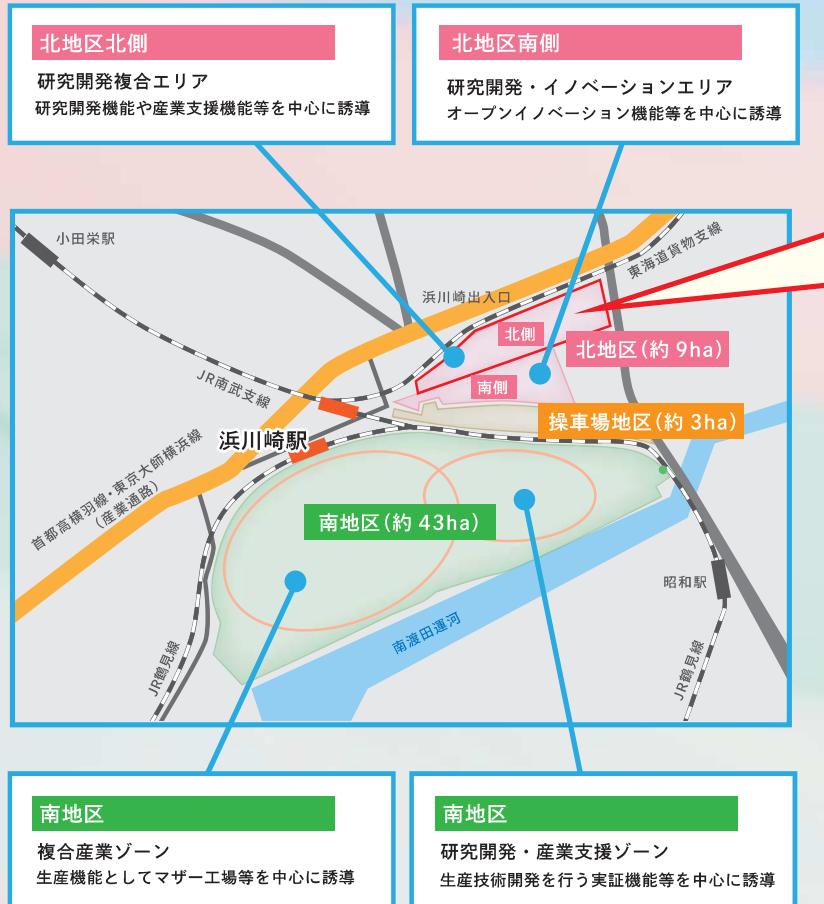
■気候変動解決のカギ「クライメートテック」がテーマ

土地利用転換プロジェクトを先行して進めている南渡田地区では、「クライメートテックを社会実装するスケールアップ拠点」をテーマに、川崎臨海部の次の100年を支える新産業拠点形成を目指しています。

「クライメートテック」とは、気候変動の問題を解決するための革新的な技術のことで、研究開発機能の集積や产学連携、オープンイノベーションの創出がカギと言われていますが、問題を解決するためには、さらに、この革新的な技術を社会実装(製品化)につなげていく必要があります。

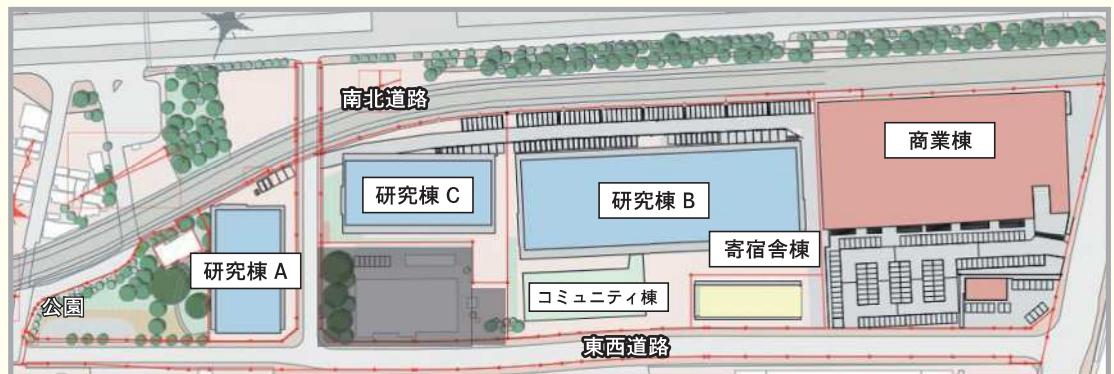
南渡田地区には、研究開発から試作・生産まで一気通貫で行える高いポテンシャルがあることから、気候変動という社会課題の解決に挑戦し、新たな産業創造の起点となるべく取組を進めています。

■南渡田地区拠点整備基本計画の概要



■北地区北側の土地利用イメージ 2027(令和9)年度まちびらきを予定

- ・拠点形成の核となる研究開発機能(約10万m²に及ぶ大規模賃貸R&D施設)
- ・快適な就業環境の創出に資する様々な産業支援機能(商業施設や居住施設)



扇島地区の土地利用転換～川崎の次の100年を切りひらく道しるべ～

扇島エリアのうち、2028年度に一部土地利用開始を目指す「先導エリア」では、海外から水素を受け入れ、貯蔵し、供給する拠点の開発を進めています。川崎臨海部は、世界に先駆けて人類共通の課題解決（カーボンニュートラルの実現）に取り組みながら、この大規模な土地利用転換をきっかけとして、産業を高度化して国際競争力のある産業の拠点として発展し続けます。

首都圏の一大消費圏に近接した広大な敷地であることや、羽田空港や幹線道路に近接し、大型船の入港が可能な国内屈指の「大水深バース」を有するなど陸海空の結節点となり得ること、周辺にエネルギー産業、化学産業、キングスカイフロントの研究機関等が集積していることなどの立地特性があります。特に扇島南地区の東側の区画は、鉄の原料を野積みするヤードだったため構造物が比較的少なく、ここを「先導エリア」と位置付け、「大水深バース」を生かして先行的に土地利用を進めていきます。先導エリアの南側はカーボンニュートラル・エネルギーゾーンとして水素等供給の拠点形成を目指します。また北側はGX、DXによる効率化、高付加価値化を実現した高度物流拠点や港湾物流拠点を形成し、2028(令和10)年度からの一部土地利用開始に向けて取組を進めています。

また、先導エリアの拠点形成を起点とし、「次世代産業」や「商業・文化・生活等」の土地利用を誘導するなど、2050年頃のエリア全体の概成を目指します。



扇島地区先導エリアの位置



扇島地区全体のゾーニング
(R5.8.31策定 土地利用方針より)



扇島地区土地利用概成時のイメージ(R5.8.31策定 土地利用方針より)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

＼ 公式ウェブページは
こちらから！ ／



＼ ブランドムービーは
こちらから！ ／



＼ 公式インスタグラムは
こちらから！ ／



＼ 公式X(旧Twitter)は
こちらから！ ／

